

表1:入所者に適用される費用徴収基準月額

対象収入による階層区分		費用徴収 基準額
	円 円	円
1	0～270,000	0
2	270,001～280,000	1,000
3	280,001～300,000	1,800
4	300,001～320,000	3,400
5	320,001～340,000	4,700
6	340,001～360,000	5,800
7	360,001～380,000	7,500
8	380,001～400,000	9,100
9	400,001～420,000	10,800
10	420,001～440,000	12,500
11	440,001～460,000	14,100
12	460,001～480,000	15,800
13	480,001～500,000	17,500
14	500,001～520,000	19,100
15	520,001～540,000	20,800
16	540,001～560,000	22,500
17	560,001～580,000	24,100
18	580,001～600,000	25,800
19	600,001～640,000	27,500
20	640,001～680,000	30,800

対象収入による階層区分		費用徴収 基準額
21	680,001～720,000	34,100
22	720,001～760,000	37,500
23	760,001～800,000	39,800
24	800,001～840,000	41,800
25	840,001～880,000	43,800
26	880,001～920,000	45,800
27	920,001～960,000	47,800
28	960,001～1,000,000	49,800
29	1,000,001～1,040,000	51,800
30	1,040,001～1,080,000	54,400
31	1,080,001～1,120,000	57,100
32	1,120,001～1,160,000	59,800
33	1,160,001～1,200,000	62,400
34	1,200,001～1,260,000	65,100
35	1,260,001～1,320,000	69,100
36	1,320,001～1,380,000	73,100
37	1,380,001～1,440,000	77,100
38	1,440,001～1,500,000	81,100
39	1,500,001円以上	150万円超 過額×0.9÷ 12月+81,100 円(100円未 満切捨て)

1. 対象収入とは、前年の収入から租税、社会保険料、医療費などの必要経費を控除した後の収入をいいます。
2. 3人部屋以上の多床室の場合は、費用徴収基準月額が、減額になる場合があります。
3. 費用徴収月額が、その月におけるその入所者に係る措置費の支弁額を超える場合にはこの表にかかわらず、当該支弁額とします。
4. 月の途中で入所し、又は退所したときは、日割り計算になります。

表2: 扶養義務者費用徴収基準月額

税額等による階層区分			費用徴収 基準額
A	生活保護法による被保護者(単給を含む。)		0円
B	A階層を除き当該年度分の市町村民税非課税の者		0円
C1	A階層及びB階層を除き前年分の所得	当該年度分の市町村民税所得割非課税(均等割のみ課税)	4,500円
C2	税非課税の者	当該年度分の市町村民税所得割課税	6,600円
D1	A階層及びB階層を除き前年分の 所得税課税の者であって、その税 額の年額区分が次の額である者	30,000円以下	9,000円
D2		30,001～80,000円	13,500円
D3		80,001～140,000円	18,700円
D4		140,001～280,000円	29,000円
D5		280,001～500,000円	41,200円
D6		500,001～800,000円	54,200円
D7		800,001～1,160,000円	68,700円
D8		1,160,001～1,650,000円	85,000円
D9		1,650,001～2,260,000円	102,900円
D10		2,260,001～3,000,000円	122,500円
D11		3,000,001～3,960,000円	143,800円
D12		3,960,001～5,030,000円	166,600円
D13		5,030,001～6,270,000円	191,200円
D14		6,270,001円以上	その月におけるその被措置者にかかる措置費の支弁額